

## 地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：広島大学（総括責任者：浅原 利正）

### プロジェクトの概要

中国四国地方の拠点大学として、教職員一体型の大学運営方針のもと、博士課程後期の学生及び博士研究員を対象とした全学組織である「若手研究人材養成センター」を新設し、男女を問わず、企業や研究機関等の研究者・技術者、中高校の理科の教員、大学や官公庁等の教職員となる博士人材を組織的に養成する。センター機能は、①実践プログラムの開発・管理・運営、②アチーブメントカードシステム運営、③メンターとカウンセリング配置、④人材養成に係る支援業務。⑤企業・学会中国四国支部組織との連携支援業務、である。選抜された被養成者は「若手研究人材養成センター」に所属し、センターで提供する実践プログラムを受講する。センターは、アチーブメントカードシステムにより被養成者の修得単位や取組み実績を一元管理し、それに基づき指導・助言を行う。

### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
S	a	a	s	s	s

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

### (2) 評価コメント

大学院の教育システム改革を実施し、キャリア支援体制を構築し、機関のシステムとして定着させ、本プログラムを強力に推進して博士人材養成に着実に取り組み、成果をあげたことは高く評価できる。アチーブメントカードシステムなどの独自の取組で獲得すべき能力とその度合いを可視化したことで、博士人材のキャリア支援の応用可能性を上げた。教員の意識改革も進み、本事業が機関のシステムとして定着したことで、今後の事業継続が期待できる。中国四国地方のコア大学として、さらに地域への展開を図っていくことを期待する。

・**目標達成度**：本事業の継続を視野に入れて大学院教育・キャリア支援システムの仕組み作り、運営を着実に実施し、機関のシステムとして定着させ今後の継続を確実にしたことは評価できる。養成者修了者数は目標に届かなかったものの、実践プログラムを受講した博士人材（特にPD）が長期取組先から高く評価され就職に結びつくなど、本システムの効果がみられた。

・**イノベーション人材養成システム改革状況**：若手研究人材養成センターを全学組織として設置し、大学院生やPDに対するカウンセリング、キャリアパスへのアドバイスの充実を図り、多数の利用者に対応した点や特別研究員制度にイノベーション型を追加して効果的に運用している点

は評価できる。今後は、教員の意識改革をさらに進め、また、大学間連携の強化を進めるとともに、長期取組先も県外、海外へと広げることを期待する。「中高等学校の教員」をキャリアパスに含めた計画の具体的な活用例がなかったが、今後に期待する。

・**実践プログラムの開発・運用状況**：アチーブメントカードシステムを有効なコミュニケーションツールとして機能させ、機関全体の博士人材に対するきめ細かいケアを実施したことは高く評価できる。開発した座学の効果に対する評価と改善、被養成者が希望にあった長期取組先を選ぶ連携企業数を増やすなど、運用面での更なる改革を期待する。

・**実施体制**：企業が参加する研究人材養成委員会を編成し、プログラムに実効性を与えたことは高く評価できる。また、キャリア相談センターを有効に機能させ、PD/DCのサポートを充実させた。ひとつひとつの取組に対し着実な運営を実施し、しっかりした実施体制を構築した。今後は、学長のリーダーシップの下、学内教員への啓蒙、他拠点との交流を強化し、地域の養成機関の中核となることを望む。

・**今後の進め方**：複数の独自予算措置を図っており、学部、MC、DC、PDとも一貫したキャリア支援体制にし、特別研究員制度と合流させたグローバルキャリアデザインセンターとしての発展した型の継続策になっており、今後、より大きな成果に結びつくことも期待でき、高く評価できる。ただし、PD/DCへの博士人材育成・開発の意味合いが薄れないことを望む。今後、他大学との連携強化、連携企業の国内外広域の展開を図るとともに、留学生人材を活かす方法としても事業の発展を期待する。